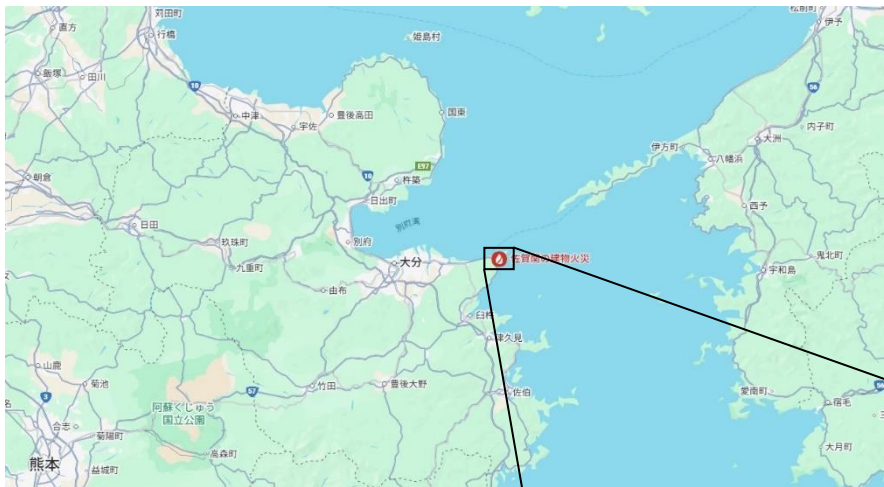


おおいたけん おお か じ はなし  
大分県での大火事のお話

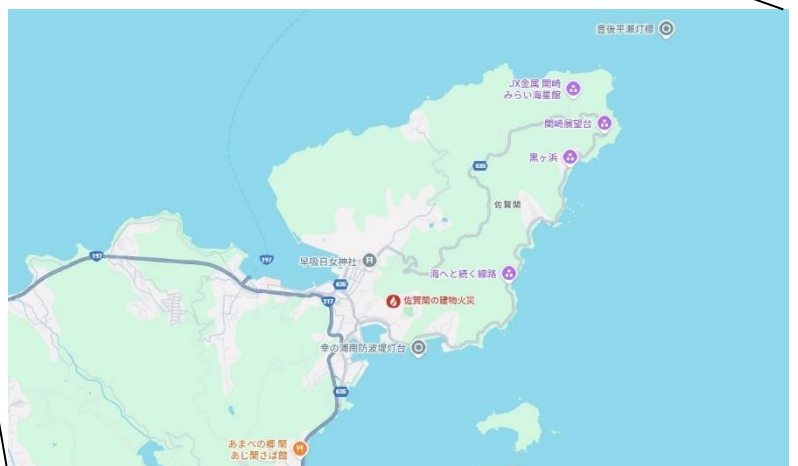
11/17 は日差しも 暖かく、日なたを歩いていると汗ばむほどの気温で、まさに「小春日和」という日でした。11/18 は一転して肌寒く、このくりかえしで本格的な冬がだんだんと近づいてきているのだな、と感じます。

さて、今回は災害関連のニュースということで、大分県大分市佐賀関で発生した大規模火災について書いていきます。



こんかい か さい はっせい ばしょ  
今回の火災が発生した場所

みぎした かくだい ず  
(右下は拡大図)



11/18 の夕方<sup>ゆうがた</sup>に発生<sup>はっせい</sup>した火災<sup>かさい</sup>は 24時間<sup>じ かん い じょう も</sup>以 上 燃え続け<sup>つづ</sup>、170棟<sup>とう い じょう</sup>以 上 の建物<sup>たてもの</sup>が焼  
け、1名<sup>めい</sup>が亡<sup>な</sup>くなるまでに大<sup>おお</sup>きくなりました。火<sup>ひ</sup>の粉<sup>こ</sup>は風<sup>かぜ</sup>にあおられて約<sup>やく</sup>1.4km  
離れた無人島<sup>はな む じんとう</sup>の蔦島<sup>つたしま</sup>（1 ページ目拡大図<sup>め かくだい ず</sup>の右下<sup>みぎした</sup>の島<sup>しま</sup>）にまで火災<sup>かさい</sup>を広<sup>ひろ</sup>げたという  
ことです。

ニュースサイトなどでもいくつかの分析<sup>ぶんせき</sup>がでていますが、今回の火災<sup>こんかい かさい</sup>が大<sup>おお</sup>き  
くなったのは、いくつかの原因<sup>げんいん</sup>が重<sup>かさ</sup>なったことによるようです。

人間<sup>にんげん</sup>の側<sup>がわ</sup>の問題<sup>もんだい</sup>としては

①古い港町<sup>ふる みなとまち</sup>で、燃えやすい木造<sup>もくぞう</sup>の住宅<sup>じゅうたく</sup>が密 集<sup>みつしゅう</sup>していた。

②それにとまって道<sup>みち</sup>が狭<sup>せま</sup>くいりくんでいるため、消 防 車<sup>しょうぼうしゃ</sup>が入りにくく、消 火<sup>しょう か</sup>  
活動<sup>かつどう</sup>がしにくかった。

③防災ヘリコプターによる 消 火<sup>しょう か</sup>が、夜<sup>よる</sup>に入<sup>はい</sup>って  
行<sup>おこな</sup>いづらくなった。

などが挙げ<sup>あ</sup>げられています。



また、自然<sup>し ぜん</sup>による要因<sup>よういん</sup>としては

①半島<sup>はんとう</sup>の付け根<sup>つ ね</sup>部分<sup>ぶ ぶん</sup>にあるせまい平地<sup>へい ち</sup>で、風<sup>かぜ</sup>が吹き抜けやすい地形<sup>ち けい</sup>であること。

②冬型<sup>ふゆがた</sup>の気圧配置<sup>きあつはい ち</sup>が強<sup>つよ</sup>まり、北西<sup>ほくせい</sup>の強い風<sup>つよ かぜ</sup>が吹<sup>ふ</sup>いていたこと。（強 風 注 意 報 告<sup>きょうふうちゅうい ほう</sup>  
で  
出<sup>で</sup>ていた。）

などが挙げ<sup>あ</sup>がっています。

火を消し止める速さよりも、風によって燃え広がる速さのほうが速かったために、広い範囲が火災にみまわれた、ということでしょう。火の粉が 1.4km も飛ばされるような風の中では火の勢いも強まります。消防士の方々も命がけの消火活動だったのではないのでしょうか。

今回の災害は純粋な自然災害ではありませんが、かといって人災と言い切ることもできません。仮にいつも気をつけていたとしても、人間はミスをしますし、防げない災害もあるということです。木造住宅が密集する地域は東京にもあります。日本ならではの住宅事情や気候の特徴もふまえて、火災に備えておく必要があるということですね。

また、日本に住んでいるからには、いつ起きるかわからない地震や、火山の噴火にも備えておかなければいけません。いつも考えすぎて不安ばかりおおきくなる、というのも困りものですが、やはり災害大国に住んでいるということを自覚し、防災意識を高く持つておくことは、我々にとって必要なことと言えるでしょう。



25/11/20 (震度4 ぐらいでは驚きもしない、というのも問題か) あん Do